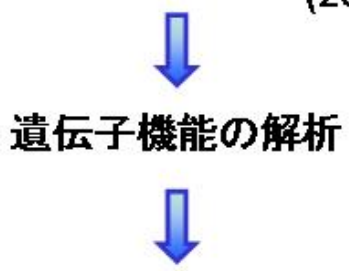


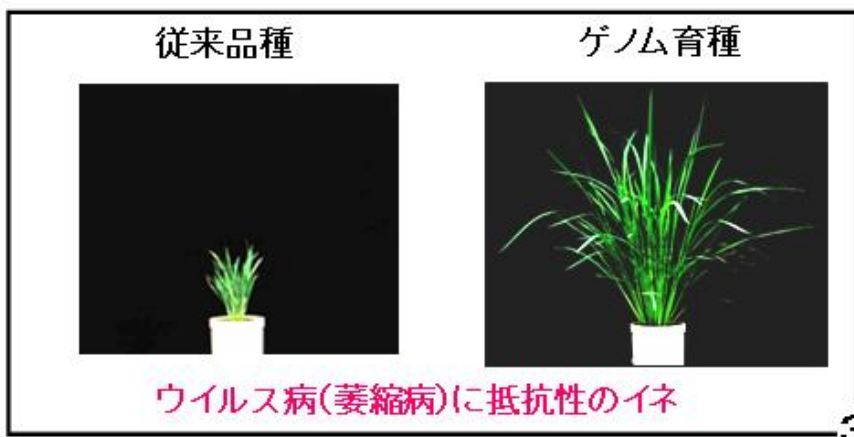
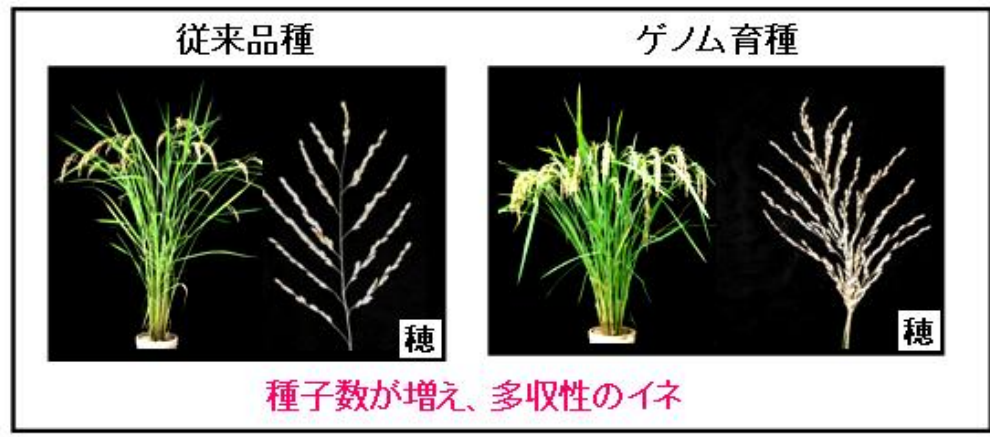
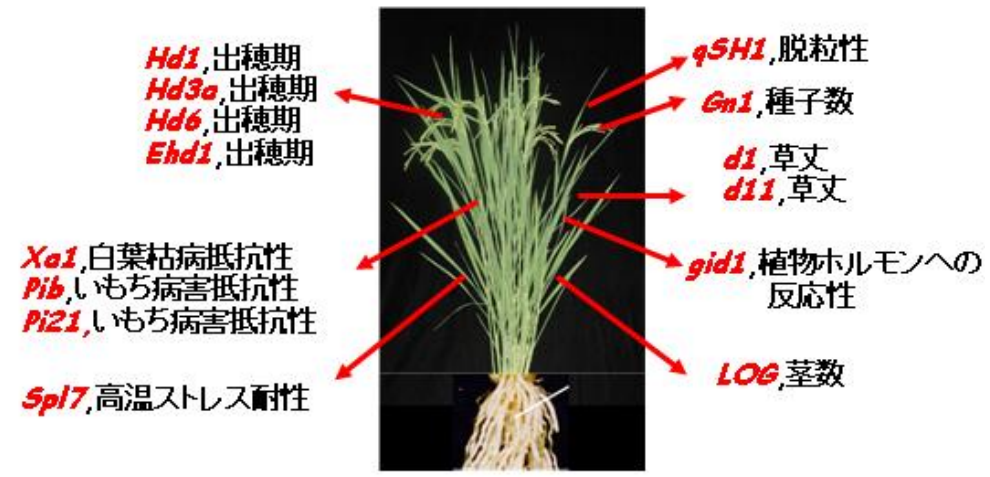
イネゲノム情報の解読とその応用

イネゲノム研究の成果

日本がイネの塩基配列の55%を解読
(2004年終了)



約100件の遺伝子関連特許を出願



植物ゲノム研究の新しい展開

1. 環境問題



海水とほぼ同じ濃度の塩水を
15日間給水後、通常の水を給水

塩害に耐えるユーカリ

2. エネルギー問題

バイオエタノールへの
変換効率を向上させた樹木等

3. 観賞用植物



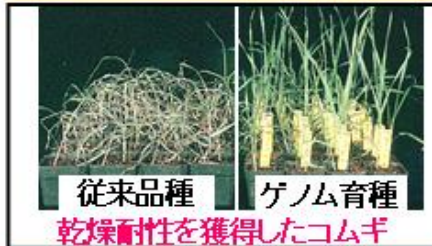
長い日照時間でも
開花するキク
(キクは日照時間が
短くなると開花)

咲く時期を調節可能なキク

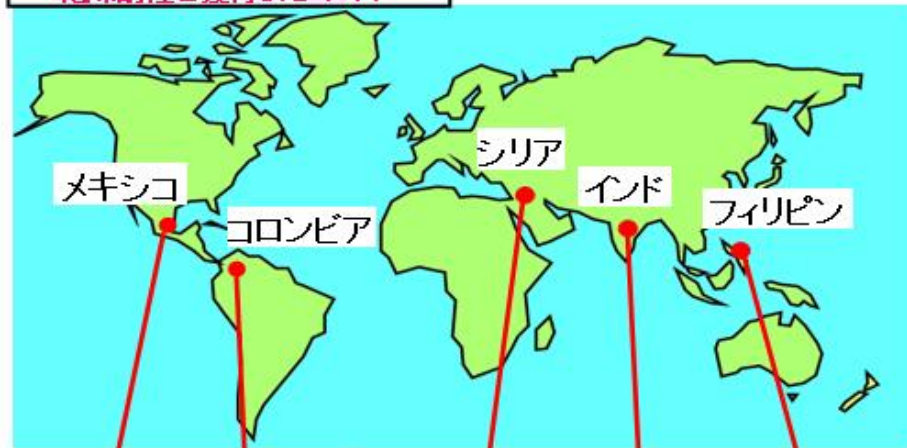
4. 機能性食品

イネの乾燥耐性遺伝子を他作物へ応用

～科学技術外交の先駆け～



(独)国際農林水産業研究
センターから供与したイネの
乾燥耐性遺伝子を各種作物に
導入し、その効果について
国際共同研究を実施中




地球規模の問題解決に貢献するゲノム育種研究

現状の問題点

- ・ DNAマーカー育種については順調に研究が進められているが、GMOについてはその受容が進んでいないため屋外栽培研究が極めて困難な状況にある

今後の方向性

- ・ 国民との双方向コミュニケーションを推進し、屋外栽培研究の環境整備
- ・ 生態系への影響を防止する技術開発を推進（花粉の不活化等）
- ・ グローバルな食料問題の解決に向け、低コスト・高品質・高機能作物を開発



日本のゲノム育種技術を活用して地球規模の
環境・エネルギー・食料問題の解決に先導的な貢献をする